

残土処理内訳表

名 称	品 種	単 位	数 量	積算数量	備 考
機械積み込み	軟 岩	㎡	782	780	
捨て土運搬土量	レキ質土	㎡	566	570	
”	軟 岩	㎡	782	780	

注1) 数量単位は単位止とし、少数1位を四捨五入する。

注2) (人力掘削) - (埋戻) - (断面内盛土) - (30m運搬盛土) = (積込土量)

注3) (-) マイナスの場合、土砂の積込は計上しない。

擁壁掘削内訳表

名 称	品 種	単 位	数 量	積算数量	備 考
機械掘削積み込み	レキ質土	㎡	445	450	
床 掘 (Ⅱ)	軟 岩	㎡	175	180	
同上破砕片除去	軟 岩	㎡	175	180	

注) 数量単位は単位止とし、少数1位を四捨五入する。

## 3 章 発泡スチロールを用いた 超軽量盛土工

### 3.1 発泡スチロールを用いた超軽量盛土工

### 3章 発泡スチロールを用いた超軽量盛土工

#### 3.1 発泡スチロールを用いた超軽量盛土工

##### 1. 適用

超軽量材としての発泡スチロールを盛土、擁壁および橋台等の抗土圧構造物の裏込め等に使用する発泡スチロール工を人力で施工する場合に適用する。

##### 2. 数量算出項目

発泡スチロール設置、発泡スチロール（材料費）、緊結金具（材料費）、コンクリート床版、支柱結合アンカー（材料費）、支柱設置、支柱（材料費）、壁面材設置、壁面材（材料費）、裏込砕石（軽量盛土）の数量を区分ごとに算出する。

##### 3. 区分

区分は、規格、雑工種、生コンクリート規格、養生工、圧送管延長距離、床板厚さ、溶接金網規格、鉄筋量、盛土高、附帯工の割合、砕石の種類とする。

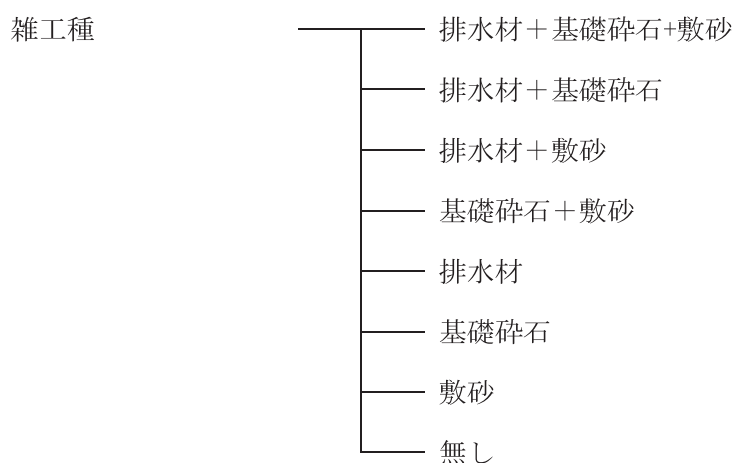
##### (1) 数量算出項目及び区分一覧表

区分 項目	BIM/CIM モデル	属性情報													
		規格	雑工種	生コンクリート規格	養生工	圧送管延長距離	床板厚さ	溶接金網規格	鉄筋量	盛土高	附帯工の割合	砕石の種類	単位	数量	備考
発泡スチロール設置	A	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	m <sub>3</sub>		
発泡スチロール（材料費）	A	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	m <sub>3</sub>		
緊結金具（材料費）	B	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	個		
コンクリート床版	A	○	×	○	○	○	○	○	○	×	×	×	m <sub>3</sub>		
支柱結合アンカー（材料費）	B	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	本		
支柱設置	B	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	本		
支柱（材料費）	B	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	本		
壁面材設置	B	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	m <sub>2</sub>		
壁面材（材料費）	B	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	m <sub>2</sub>		
裏込砕石（軽量盛土）	A	○	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	m <sub>3</sub>		

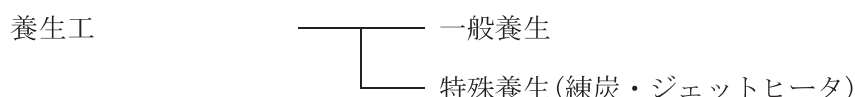
BIM/CIMモデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

- 注) 1. 軽量盛土(発泡スチロール)の排水材(不織布:厚さ10mm以下)、基礎碎石(敷均し厚20cm以下)、敷砂(敷均し厚10cm以下)を標準としており、これにより難しい場合については別途考慮する。
2. 雑工種における材料は、種別・規格にかかわらず適用できる。
3. 発泡スチロールブロックの固定のためにL型ピンの設置が必要な場合は別途考慮する。
4. コンクリート床版にグラウンドアンカー等を結合する場合は別途考慮する。
5. ベースプレート式H型鋼支柱(H型鋼規格はH300mm×300mm以下、長さ9m以下)を標準としており、これにより難しい場合については別途考慮する。
6. 壁面材1枚当りの規格は、長さ2.5m以下、幅0.6m以下、重量170kg以下を標準としており、これにより難しい場合については別途考慮する。

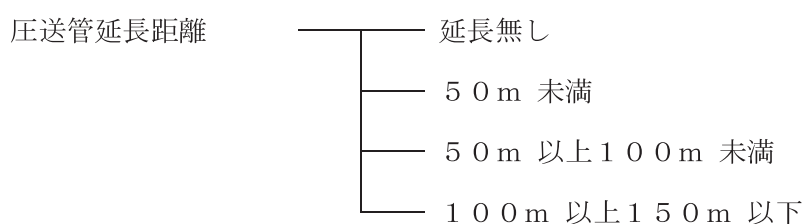
(2) 発泡スチロール設置の雑工種による区分



(3) コンクリート床版の養生工による区分



(4) コンクリート床版の生コンクリート規格による区分

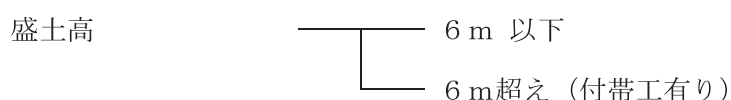


注) 圧送管延長距離区分は、作業範囲(30m)を超えて圧送管を延長する場合に、超えた部分の延長距離を該当する区分から選択する。

(5) コンクリート床版の床版厚さによる区分

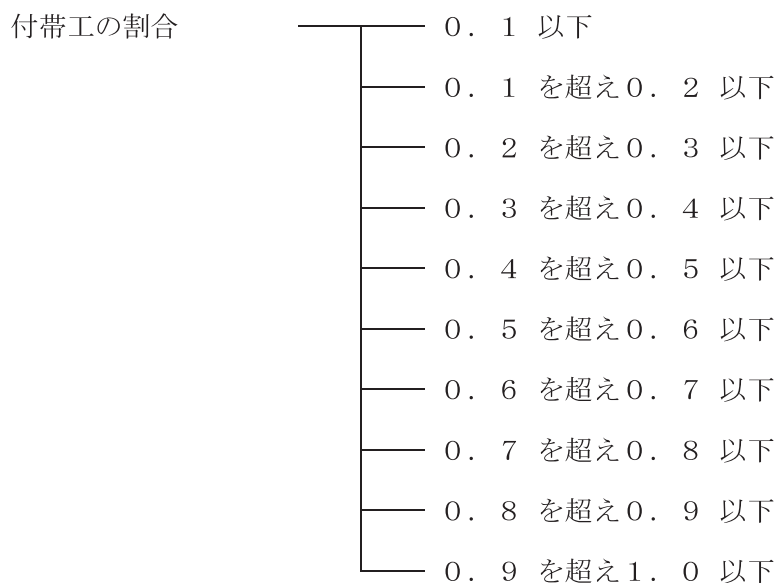


(6) 裏込碎石(軽量盛土)の盛土高による区分





(7) 裏込砕石（軽量盛土）の付帯工の割合による区分



注) 付帯工の割合は、「4. 数量算出方法 (7)」により算出する。

関連数量算出項目

項目	BIM/CIM モデル	属性情報		
		単位	数量	備考
コンクリート (基礎コンクリート部)	A	m <sup>3</sup>		「第1編(共通編)4.1コンクリート工」参照
型枠 (基礎コンクリート部)	B	m <sup>2</sup>		「第1編(共通編)4.2型枠工」参照
鉄筋工 (基礎コンクリート部)	B	t		「第1編(共通編)4.3.1鉄筋工」参照
基礎材 (基礎コンクリート部)	B	m <sup>2</sup>		「第1編(共通編)9.1基礎・裏込砕石工」参照

4. 数量算出方法

数量算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。

(1) 発泡スチロール(材料費)は、ロス率を以下とし体積(m<sup>3</sup>)を算出する。

項目	ロス率
発泡スチロール	+0.04

(2) 緊結金具(材料費)の発泡スチロールm<sup>3</sup>当りの使用量は、ロス率を含み以下とし個数を算出する。

項目	数量
緊結金具	2.3

(3) 支柱結合アンカー(材料費)は、規格ごとにコンクリート床板体積当りの必要本数(本/m<sup>3</sup>)を算出する。

(4) 支柱(材料費)は、規格ごとに本数を算出する。

(5) 壁面材(材料費)は、壁面固定金具を含み、規格ごとに壁面面積当りの必要数量(枚/m<sup>2</sup>及び個/m<sup>2</sup>)を算出する。

(6) 裏込砕石（軽量盛土）は、設計数量を算出する。

(7) 付帯工の割合は下式にて算出する。

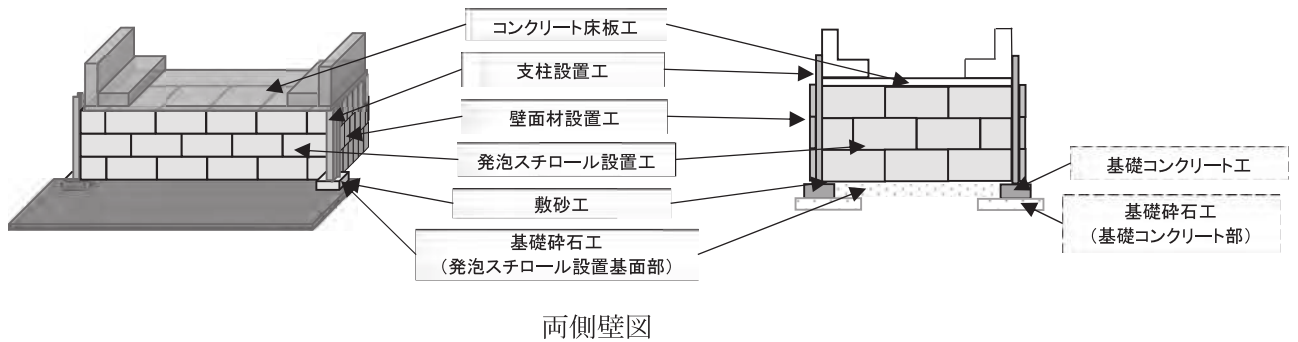
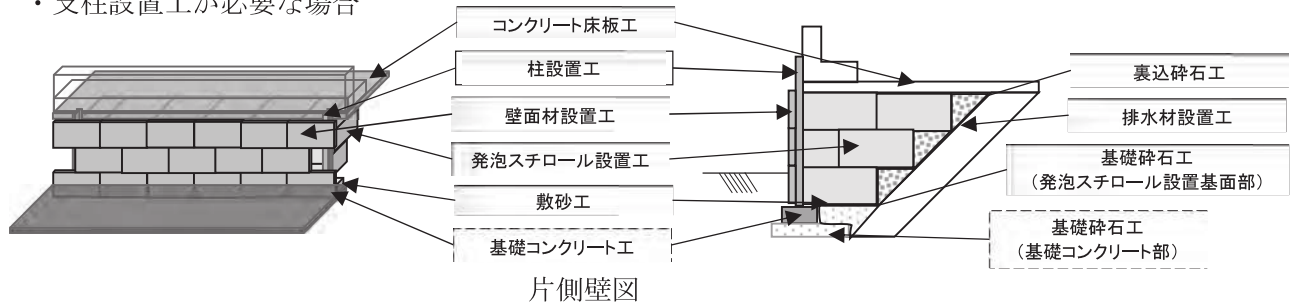
$$\text{付帯工の割合} = \frac{\text{裏込砕石工の盛土高 6 m を超える部分の設計量 (m)}}{\text{裏込砕石工全体の設計量 (m}^3\text{)}} \times 100$$

設計量 (m<sup>3</sup>) : ロスを含まない数量

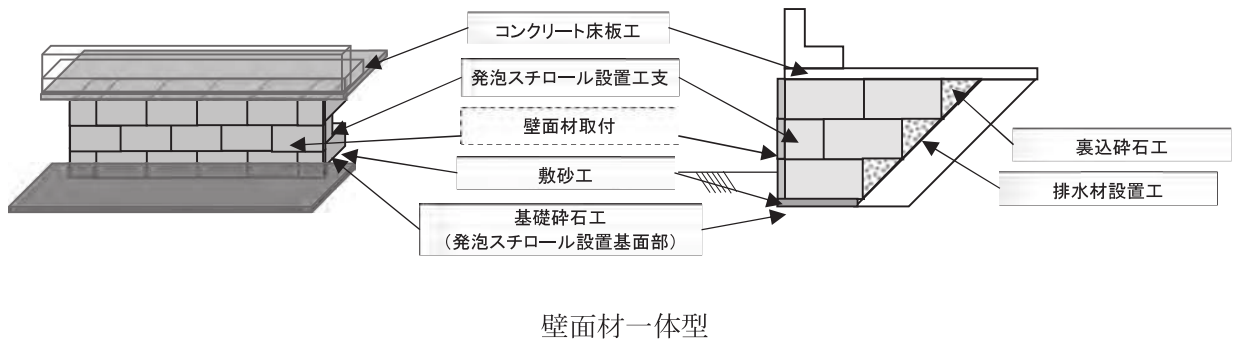
## 5. 参考図

### (1) 壁面材有り

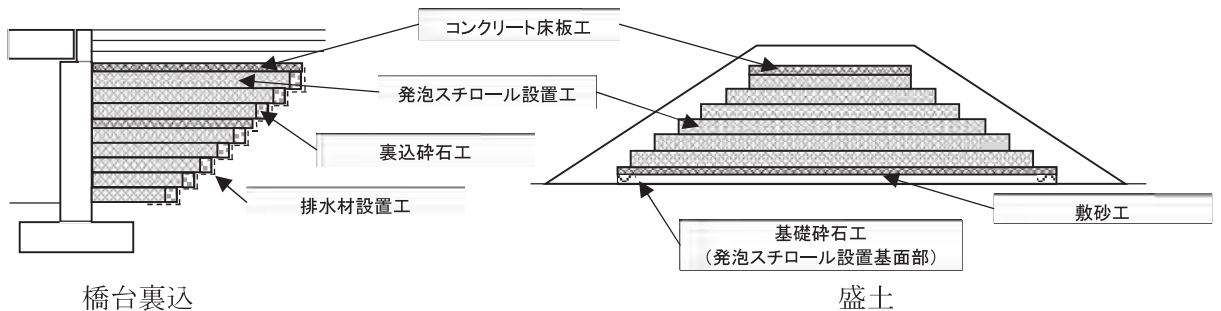
・支柱設置工が必要な場合



・支柱設置工が必要無い場合



### (2) 壁面材無し



## 4 章      コンクリート工

4.1 コンクリート工

4.2 型枠工

4.3 鉄筋工

4.3.1 鉄筋工

4.3.2 ガス圧接

4.4 張りコンクリート工

# 4章 コンクリート工

## 4.1 コンクリート工

### 1. 適用

一般的な構造物のコンクリート打設に適用する。  
ただし、ダムコンクリート、トンネル覆工コンクリート、砂防コンクリート、コンクリート舗装、消波根固めブロック工、コンクリート桁及び軽量コンクリート等の特殊コンクリート打設、4. 4張りコンクリート工、第1編(共通編)6章6.4場所打擁壁工(1)(2)、7章函渠工(1)(2)、第3編(道路編)7章橋台・橋脚工(1)(2)、10章共同溝工(1)(2)に、張りコンクリートは適用しない。

### 2. 数量算出項目

コンクリート、均しコンクリートの数量を区分ごとに算出する。

### 3. 区分

区分は、構造物種別、コンクリート規格とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	BIM/CIM モデル	属性情報			
			構造物種別	コンクリート規格	単位	数量
コンクリート		A	○	○	m <sup>3</sup>	
モルタル練り		A		○	m <sup>3</sup>	

「コンクリート」は、BIM/CIMモデルより体積を算出し、属性情報を用いて構造物種別等を区分することより「A」を適用する。

#### (2) 構造物種別

構造物種別ごとに各部ごとの数量を算出し集計する。

- ①無筋・鉄筋構造物
- ②小型構造物

#### (3) コンクリート規格

コンクリート規格ごとの数量を算出し集計する。

#### (4) モルタル練

セメント種類は、規格ごとの数量を算出し集計する。

#### 4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章 基本事項」によるほか下記によるものとする。

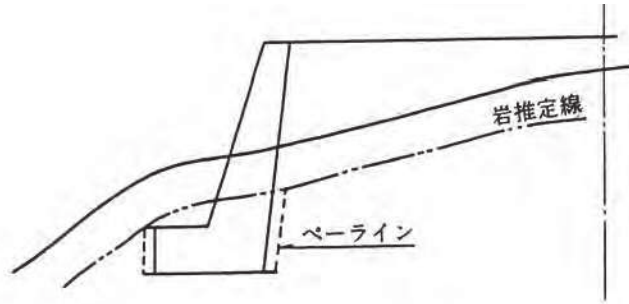
##### (1) ペーラインの計上

型枠を設置できない場合は、ペーラインを計上するものとする。

ペーラインコンクリート厚は、以下のとおりとする。

岩着→ 5 c m

(例)



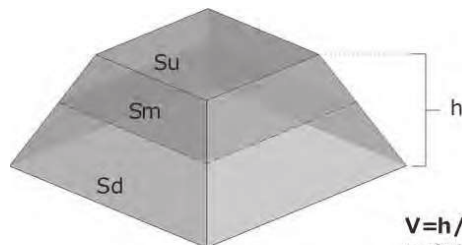
##### (2) 3次元CADソフトの利用

体積の計算において、3次元CAD等を用いる場合は、3次元CADソフト等の自動計算機能によりBIM/CIMモデルを分割し、各分割の体積算出及び各分割の合計等を自動計算により算出することができるものとする。

(参考) BIM/CIMモデルの分割、各分割の合計等の方式の例

###### a) 分割による算出

- ① BIM/CIMモデルを変化点ごとに、XY平面の水平方向の多角錐体に分割後、多角錐体の各体積を合計し算出する。



$$V = h / 6 \times (Su + Sd + 4 \times Sm)$$

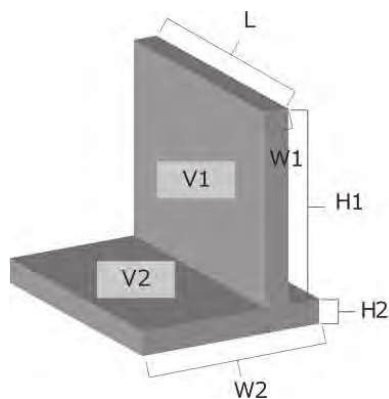
h:高さ

Su:上面面積

Sm:中面面積

Sd:下面面積

- ② 単純な幾何図形に分割した各体積を基に各体積の和、差等の集合演算により算出する。



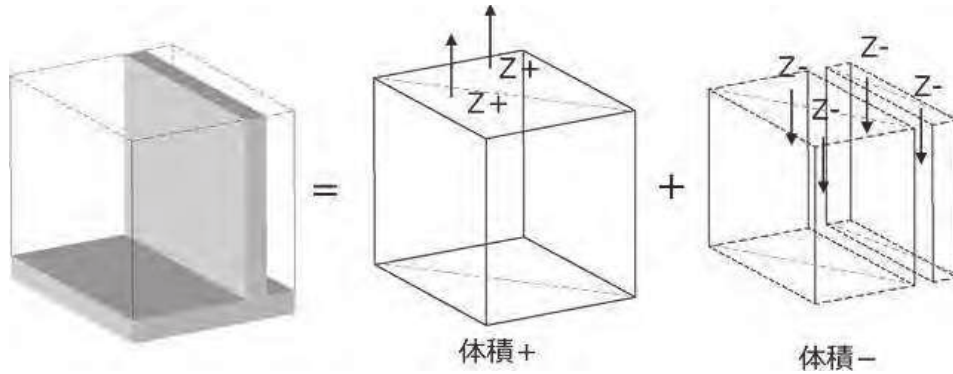
$$V1 = W1 \times H1 \times L$$

$$V2 = W2 \times H2 \times L$$

$$V = V1 + V2$$

b) 三角形分割による算出

- ① BIM/CIMモデル表面を三角形分割し、各面とモデル最下水平面との間の柱体積の合計をモデルの体積とする。この時、面の法線ベクトルのZ成分の符号を柱体積の符号とし、+は加算、-は控除する。

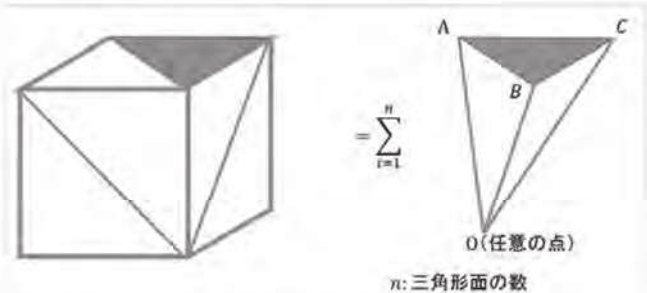


- ② BIM/CIMモデル表面を三角形分割し、それぞれの三角形に対して、三角形の3点と1点（例えばモデル原点）を結んで作られる三角錐の体積を合計する。

計算式

$$V_{tetra} = \frac{1}{6} \left( (\overline{OA} \times \overline{OB}) \cdot \overline{OC} \right)$$

$$V = \sum V_{tetra}$$



三角形ABCは表が反時計回りとなるように定める。  
 三角形面の外側に1点がある場合、計算される体積値は負となるが、  
 その場合、他の三角錐から控除すべき体積であるので、和は全体の体積と等しくなる。

## 4.2 型枠工

### 1. 適用

一般土木工事の構造物施工にかかる型枠工に適用する。  
 ただし、鋼橋床版、コンクリート桁、砂防、ダム、トンネル、4. 4張りコンクリート工、第1編(共通編)6章 6.4.1 場所打擁壁工(1)、7章 7.1.1 函渠工(1)、第3編(道路編)7章 7.1.1 橋台・橋脚工(1)、10章 10.1 共同溝工(1)等には適用しない。

### 2. 数量算出項目

型枠の面積を区分ごとに算出する。

### 3. 区分

区分は、型枠の種類、構造物の種類とする。

#### (1) 数量算出項目及び区分一覧表

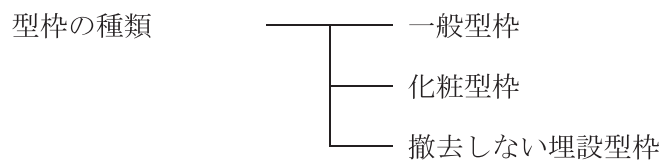
項目 \ 区分	BIM/CIM モデル	属性情報				
		型枠 の種類	構造物 の種類	単位	数量	備考
型 枠	B	○	○	m <sup>2</sup>		

- 注) 1. 撤去しない埋設型枠の発泡スチロールについては、平均厚を備考欄に明記する。  
 2. 鉄筋・無筋構造物(合板円形型枠使用)は、半径5m以下の円形部分に適用する。

「型枠」は、簡易な形状(点、線、面)を用いて位置と面積を算出し、属性情報を用いて型枠の種類や構造物種別を区分することより「B」を適用する。

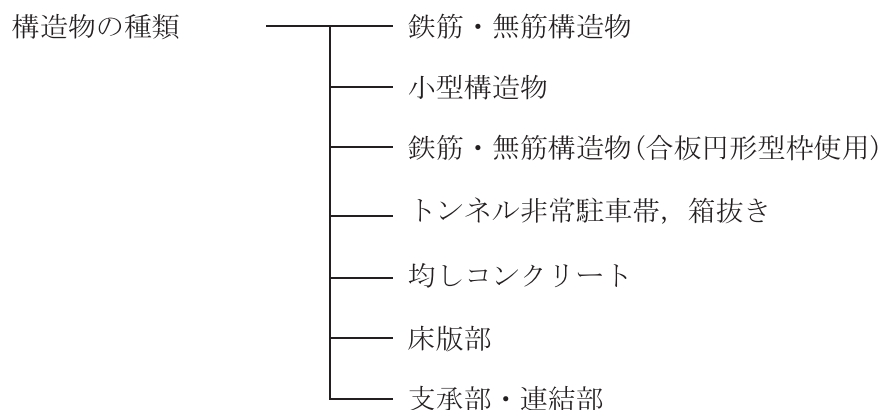
#### (2) 型枠の種類区分

型枠の種類による区分は、以下のとおりとする。



#### (3) 構造物の種類区分

構造物の種類による区分は、以下のとおりとする。

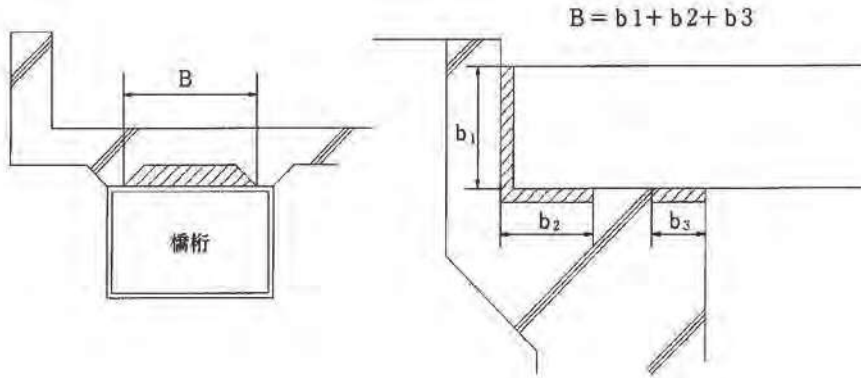


(4) 撤去しない埋設型枠

撤去しない埋設型枠の型枠設置面積の算出は、下記のとおりとする。

床版部

支承部・連結部



$$A = B \times L$$

A : 型枠面積 (m<sup>2</sup>)  
 B : 設置幅 (m)  
 L : 設置延長 (m)

支承部・連結部の発泡スチロールの使用量は、次式による。

$$\text{使用量 (m}^2\text{)} = \text{設置面積 (m}^2\text{)} \times (1 + K)$$

K : ロス率 (+0.04)

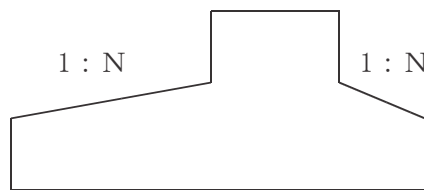
(5) 妻型枠

妻型枠については、小型構造物は計上しない。無筋構造物は、施工手順を検討の上、必要数量を計上する。

(6) 小型構造物（胴木等）の勾配1割より急なヶ所は型枠を計上する。（1割は計上する）

(7) 無筋、鉄筋構造物の勾配3割より急なヶ所は型枠を計上する。（3割は計上する）

例：橋台、橋脚のフーチング、逆T擁壁

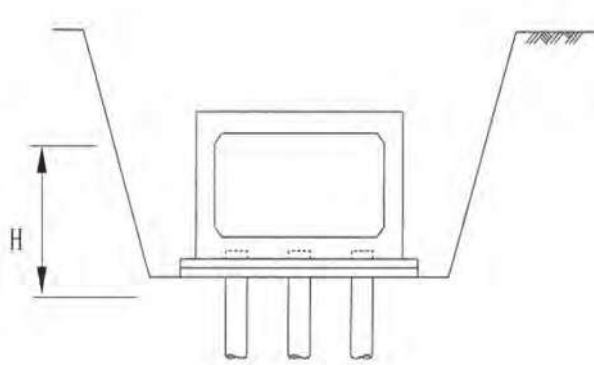


N ≤ 3.0の場合計上  
 (3 ≒ 18度30分)

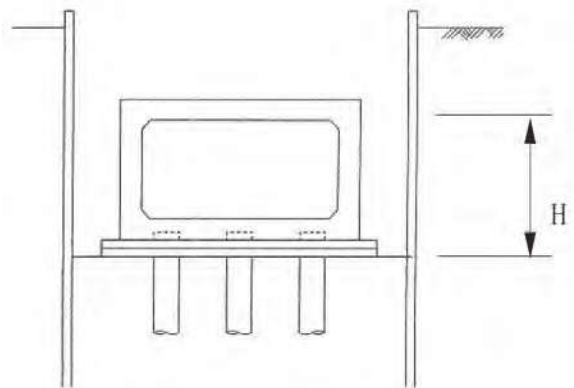


(6) 型枠の設置高さ区分

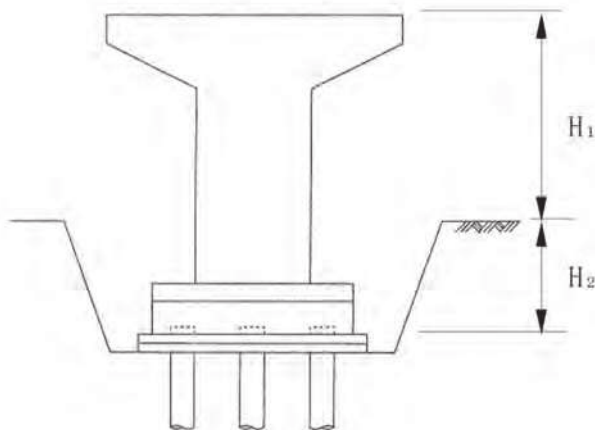
型枠材の設置において、設置高さの平均が30mを超える場合は、その設置高さを備考欄に明記すること。



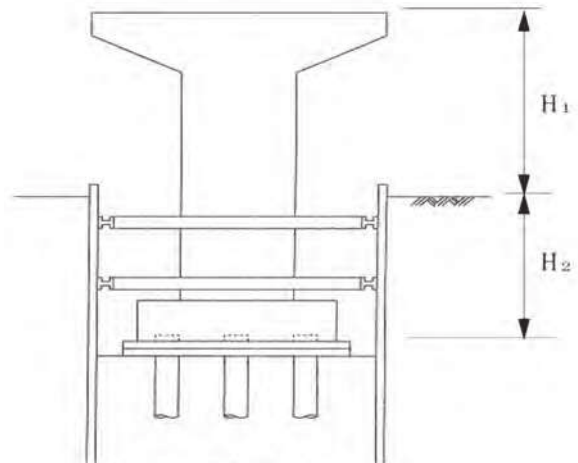
設置高さ=H



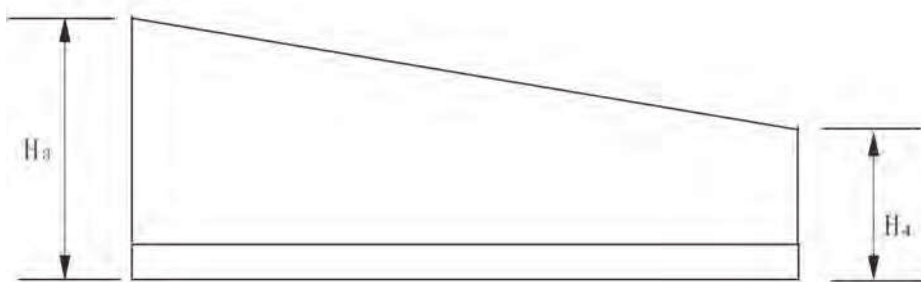
設置高さ=H



設置高さ=H<sub>1</sub>+H<sub>2</sub>



設置高さ=H<sub>1</sub>+H<sub>2</sub>



平均設置高さ=1/2×(H<sub>3</sub>+H<sub>4</sub>)

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編(共通工)1章 基本事項」による。

## 4.3 鉄筋工

### 4.3.1 鉄筋工

#### 1. 適用

河川，海岸，道路，水路，コンクリート橋梁，鋼橋床版の鉄筋構造物の加工・組立，及び，差筋，場所打杭の鉄筋かごの加工・組立に適用する。なお、鉄筋径は，D10（φ9）以上 D51（φ51）以下とする。

#### 2. 数量算出項目

鉄筋の質量を区分ごとに算出する。

#### 3. 区分

区分は、規格・仕様、材料規格、鉄筋径、施工条件、構造物種別、施工規模、太径鉄筋の割合とする。

##### (1) 数量算出項目及び区分一覧表

###### 1) 加工・組立・差筋

区分 項目	BIM/CIM モデル	属性情報									
		規格 仕様	材料 規格	鉄筋径	施工 条件	構造物 種別	施工 規模	太径鉄筋 の割合	単位	数量	備考
鉄筋	B	○	○	○	○	○	○	○	t		

注) 規格・仕様区分において「場所打杭用かご筋」に区分される場合は、施工条件区分、構造物種別は算出する必要はない。

「鉄筋」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置と延長より質量を算出し、属性情報を用いて規格・仕様等を区分することより「B」を適用する。

###### (2) 規格・仕様区分

規格・仕様	適用基準
一般構造物	構造物の鉄筋の加工・組立
場所打杭用かご筋	場所打杭用鉄筋かごの加工・組立

###### (3) 材料規格区分および鉄筋径区分

材料規格	鉄筋径	材料規格	鉄筋径	材料規格	鉄筋径	
SD295	D10	SD345	D10	SR235	φ9	
	D13		D13		φ13	
	D16		D16~D25		φ16~φ25	
			D29~D32			
			D35			
			D38			
			D41			
			D51			

(4) 施工条件区分

トンネル内の鉄筋組立作業がある場合は、その数量を区分して算出する。  
なお、トンネル内に区分した場合は、(5) 構造物種別は算出する必要はない。

(5) 構造物種別

規格・仕様	適用基準
切梁のある構造物	切梁のある構造物、立杭、及び深礎工（掘削坑内組立て）の加工・組立作業（ $H_1$ ） < $(H_2) \times 2$
地下構造物	地表面下で覆工板等に覆われて施工する構造物の加工・組立作業
橋梁用床版	鋼橋用床版（PC床版は除く）の加工・組立作業
RC場所打ホロースラブ橋	RC場所打ホロースラブ橋の加工・組立作業
差筋及び杭頭処理	差筋及び杭頭処理作業

(6) 施工規模区分

1工事に2つ以上の規格・仕様を適用する場合は、1工事あたりの全体数量を算出する。

(7) 太径鉄筋の割合区分

1単位当たり構造物に使用する太径鉄筋（D38以上D51以下）の質量を算出し、1単位当たり構造物における割合を以下の方法により算出する。

なお、(5) 構造物種別で橋梁用床版またはRC場所打ホロースラブ橋を選択した場合は、算出する必要はない。

$$\text{太径鉄筋の割合} = \frac{\text{1単位当たり構造物の設計太径鉄筋質量}}{\text{1単位当たり構造物の設計質量}}$$

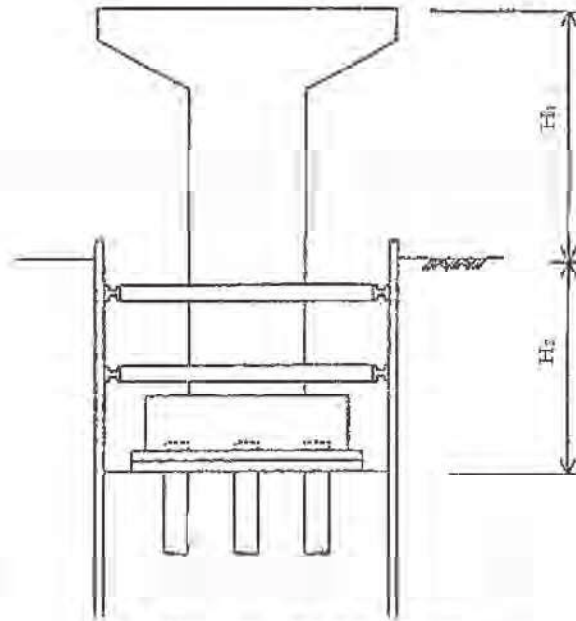
(1単位当たり構造物の参考例)

- ① 1工事で複数の橋脚を施工する場合  
橋脚1基毎の太径鉄筋の質量を算出し、集計する。
- ② 1工事で複数の場所打杭用かご筋を施工する場合  
杭1本毎の太径鉄筋の質量を算出し、集計する。

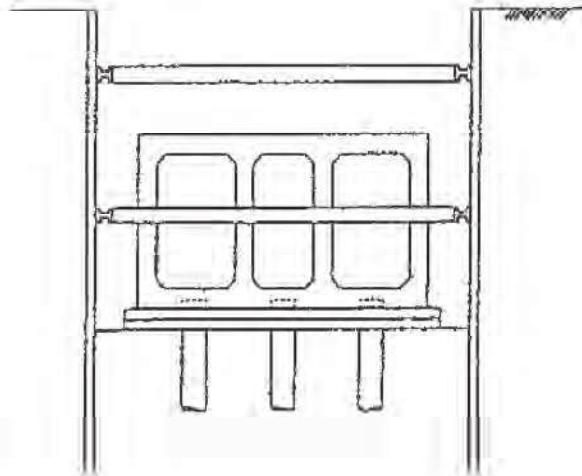
(8) その他

鉄筋の継手方法が機械継手の場合、場所打杭用かご筋以外でフレアー溶接を行う場合は別途数量を算出するものとする。

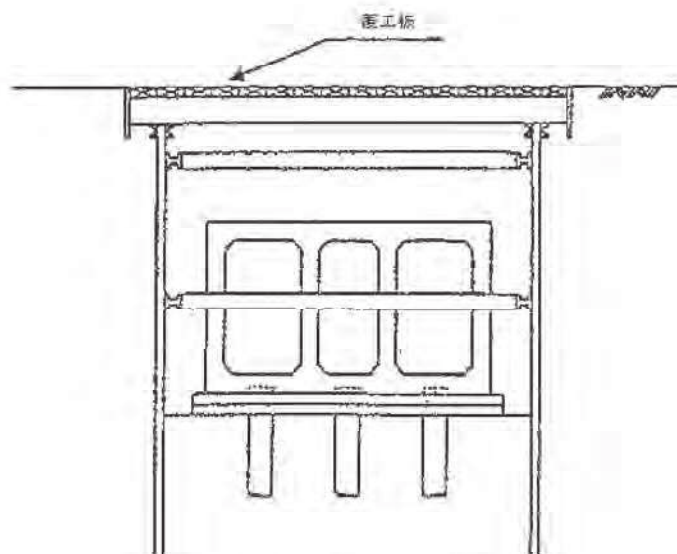
4. 参考図



$H_1 < 2H_2 \dots T_1$  (切梁のある構造物)  
 $H_1 \geq 2H_2 \dots$  補正なし



覆工板を外す、またはない。... $T_1$  (切梁のある構造物)



覆工板を外さず作業する... $T_2$  (地下構造物)

## 4.3.2 ガス圧接

### 1. 適用

鉄筋構造物の組立作業における手動式（半自動式）、自動式のガス圧接工に適用する。

### 2. 数量算出項目

鉄筋のガス圧接箇所を区分ごとに算出する。

### 3. 区分

区分は、規格、施工規模とする。

#### (1) 数量算出項目及び区分一覧表

区分 項目	BIM/CIM モデル	属性情報				
		規格	施工規模	単位	数量	備考
ガス圧接	B	○	○	箇所		

「ガス圧接」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置と個数を算出し、属性情報を用いて規格や施工規模を区分することより「B」を適用する。

#### (2) 規格区分

規 格
D 1 6 + D 1 6
D 1 9 + D 1 9
D 2 2 + D 2 2
D 2 5 + D 2 5
D 2 9 + D 2 9
D 3 2 + D 3 2
D 3 5 + D 3 5
D 3 8 + D 3 8
D 4 1 + D 4 1
D 5 1 + D 5 1

注) 径違いの圧接の場合は、上位の規格による。

#### (3) 施工規模区分

1 工事における全規模の全体数量が 1 0 0 箇所以上であれば「無」、1 0 0 箇所未満であれば「有」として区分する。

## 4.4 張りコンクリート工

### 1. 適用

(1) 縦排水溝・小段排水溝周りの張りコンクリートとして、法面排水による洗掘防止等を目的として行うもの。(2) 防草コンクリートとして、路肩(路側に隣接する法尻・法肩を含む)や分離帯に防草や防火、表面排水等を目的として行うものに適用する。

### 2. 数量算出項目

張りコンクリートの数量を区分ごとに算出する。

### 3. 区分

区分は、基面生成、型枠工の対象構造物と生コンクリート規格、コンクリート打設工とする。

#### (1) 数量算出項目及び区分一覧表

##### 1) 張りコンクリート

項目	区分 BIM/CIM モデル	属性情報				
		対象構造物	生コンクリート規格	単位	数量	備考
基面整正	B			m <sup>2</sup>		
型枠工	B	○		m <sup>2</sup>		
コンクリート 打設工	B	○	○	m <sup>2</sup>		

BIM/CIMモデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする。

#### (2) 基面整正

必要とする基面整正面積を算出する。

#### (3) 型枠工

下記の通り、対象構造物ごとに区分して算出する。

- ① 縦排水溝
- ② 小段排水溝
- ③ 防草コンクリート

#### (4) コンクリート打設工

対象構造物ごとの生コンクリート規格に区分して算出する。

#### 4. 数量算出方法

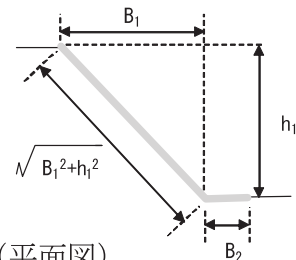
数量の算出は、「第1編（共通編）1章 基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。  
 ※対象構造物の幅、長さが一定でない場合は、平均値を用いて算出することとする。

##### (1) 縦排水溝

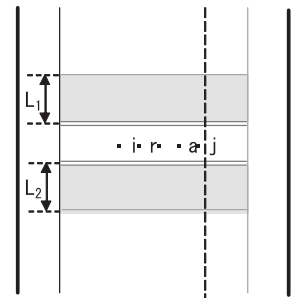
$$S = (L_1 + L_2) \times \sqrt{(B_1^2 + h_1^2)} + (L_1 + L_2) \times B_2 \quad (\text{m}^2)$$

- S : 張りコンクリート面積 (m<sup>2</sup>)
- B<sub>1</sub> : 対象構造物の幅 (m)
- B<sub>2</sub> : 対象構造物の幅 (m)
- h<sub>1</sub> : 対象構造物の高さ (m)
- L<sub>1</sub> : 対象構造物の長さ (m)
- L<sub>2</sub> : 対象構造物の長さ (m)

(断面図)



(平面図)

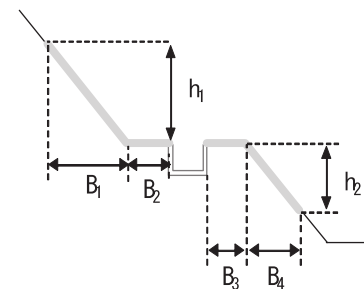


##### (2) 小段排水溝

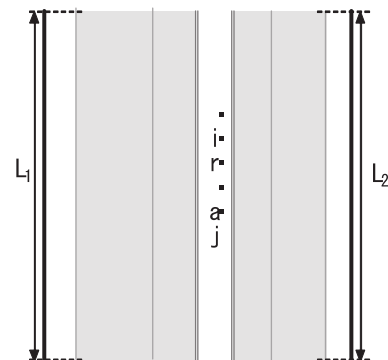
$$S = (L_1 \times \sqrt{(B_1^2 + h_1^2)}) + (L_1 \times B_2) + (L_2 \times B_3) + (L_2 \times \sqrt{(B_1^2 + h_1^2)}) \quad (\text{m}^2)$$

- S : 張りコンクリート面積 (m<sup>2</sup>)
- B<sub>1</sub> : 対象構造物の幅 (m)
- B<sub>2</sub> : 対象構造物の幅 (m)
- B<sub>3</sub> : 対象構造物の幅 (m)
- B<sub>4</sub> : 対象構造物の幅 (m)
- h<sub>1</sub> : 対象構造物の高さ (m)
- h : 対象構造物の高さ (m)
- L<sub>1</sub> : 対象構造物の長さ (m)
- L<sub>2</sub> : 対象構造物の長さ (m)

(断面図)



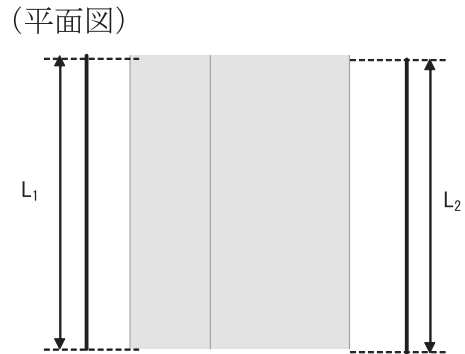
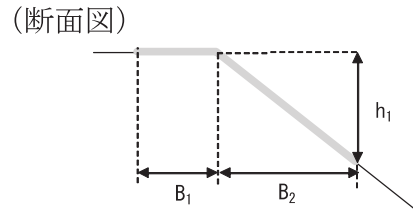
(平面図)



(3) 防草コンクリート (法肩部)

$$S = (L_1 \times B_1) + (L_2 \times \sqrt{(B_2^2 + h_1^2)}) \quad (\text{m}^2)$$

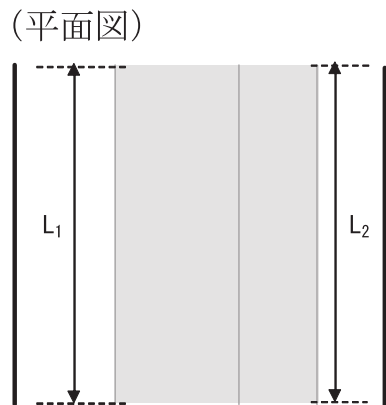
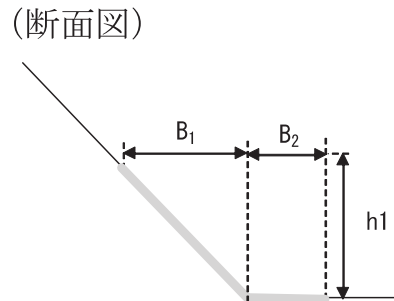
- S : 張りコンクリート面積 (m<sup>2</sup>)
- B<sub>1</sub> : 対象構造物の幅 (m)
- B<sub>2</sub> : 対象構造物の幅 (m)
- h<sub>1</sub> : 対象構造物の高さ (m)
- L<sub>1</sub> : 対象構造物の長さ (m)
- L<sub>2</sub> : 対象構造物の長さ (m)



(4) 防草コンクリート (法尻部)

$$S = (L_1 \times \sqrt{(B_1^2 + h_1^2)}) + (L_2 \times B_2) \quad (\text{m}^2)$$

- S : 張りコンクリート面積 (m<sup>2</sup>)
- B<sub>1</sub> : 対象構造物の幅 (m)
- B<sub>2</sub> : 対象構造物の幅 (m)
- h<sub>1</sub> : 対象構造物の高さ (m)
- L<sub>1</sub> : 対象構造物の長さ (m)
- L<sub>2</sub> : 対象構造物の長さ (m)



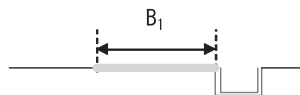


(5) 防草コンクリート (排水部)

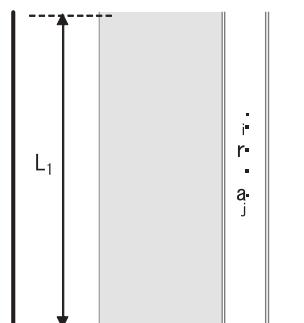
$$S = L_1 \times B_1 \quad (\text{m}^2)$$

- S : 張りコンクリート面積 (m<sup>2</sup>)
- B<sub>1</sub> : 対象構造物の幅 (m)
- L<sub>1</sub> : 対象構造物の長さ (m)

(断面図)



(平面図)



# 5 章 法 覆 工

## 5.1 法枠工

5.1.1 プレキャスト法枠工

5.1.2 現場打法枠工

5.1.3 吹付枠工

5.1.4 プレキャストコンクリート板設置工

## 5.2 吹付工

## 5.3 植生工

## 5.4 コンクリートブロック積（張）工

## 5.5 石積（張）工

5.5.1 多自然型護岸工（巨石積（張）工）

5.5.2 石積（張）工

## 5.6 平石張工

# 5章 法覆工

## 5.1 法枠工

### 5.1.1 プレキャスト法枠工

#### 1. 適用

プレキャストブロックによる法枠工に適用する。

#### 2. 数量算出項目

プレキャストブロック、中詰等の数量を区分ごとに算出する。

#### 3. 区分

区分は、中詰種類、規格とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目 \ 区分		BIM/CIM モデル	属性情報			
			中詰 種類	規格	単位	数量
プレキャストブロック		B	○	○	m <sup>2</sup>	中詰面積を含めた面積とする
敷砂利		A	○	○	m <sup>3</sup>	必要な場合算出
中	中詰ブロック	B	×	○	m <sup>2</sup>	法枠面積を含めた面積とする
	客土	A	×	○	m <sup>3</sup>	
	中詰張コンクリート	A	×	○	m <sup>3</sup>	
	中詰張芝	B	×	○	m <sup>2</sup>	
詰	植生土のう	B	×	○	袋	
	栗石(割石)	A	×	○	m <sup>3</sup>	
砕石		A	×	○	m <sup>3</sup>	

BIM/CIMモデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

- 注) 1. プレキャストブロックについては、アンカー及び吸出防止材の有無に区分し算出する。  
 2. プレキャストブロック及び中詰めブロックについては、1 m<sup>2</sup>当りプレキャストブロック使用量(個)も算出する。  
 3. 中詰ブロックについては、段数(1~2段 or 2段を超える)ごとに区分し算出する。  
 4. 足場工が必要な場合は別途算出する。  
 5. 法面清掃工が必要な場合は別途算出する。

#### 4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章 基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

##### (1) プレキャスト法枠

プレキャスト法枠の数量は、中詰面積を含めた面積を算出する。

プレキャスト法枠の材料は、種類に応じて使用量（個）を算出する。

##### (2) 中詰ブロック

中詰ブロックの数量は、中詰ブロックの使用量（法枠面積100m<sup>2</sup>当り）及び法枠面積を含めた全体面積を算出する。

## 5.1.2 現場打法枠工

### 1. 適用

現場打法枠工に適用する。

### 2. 数量算出項目

現場打法枠、コンクリート、型枠、鉄筋、中詰等の数量を区分ごとに算出する。

### 3. 区分

区分は、中詰種類、規格、施工方法とする。

#### (1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	BIM/CIM モデル	属性情報					
			中詰 種類	規 格	施 工 方 法	単 位	数 量	備 考
現場打法枠		B	○	×	×	m <sup>2</sup>		施工面積
コンクリート		A	○	○	○	m <sup>3</sup>		
型 枠		B	○	×	×	m <sup>2</sup>		小型構造物 (I)
鉄 筋		B	○	○	×	t		
敷 砂 利		A	○	○	×	m <sup>3</sup>		必要な場合算出
吸出防止材		B	○	○	×	m <sup>2</sup>		必要な場合算出
ア ン カ ー		B	○	○	×	本		必要な場合算出
中	中詰ブロック	B	×	○	×	m <sup>2</sup>		
	中詰張コンクリート	A	×	○	×	m <sup>3</sup>		
	中詰張芝	B	×	○	×	m <sup>2</sup>		
	客 土	A	×	○	×	m <sup>3</sup>		
	植生土のう	B	×	○	×	袋		
詰	栗石 (割石)	A	×	○	×	m <sup>3</sup>		
	砕 石	A	×	○	×	m <sup>3</sup>		

BIM/CIMモデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

- 注) 1. 足場工が必要な場合は別途算出する。  
2. 法面清掃工が必要な場合は別途算出する。

(2) 施工方法区分

施工方法による区分は、下表のとおりとする。

施工方法	施工条件
人力打設	施工法面の天端にコンクリート運搬車が接近でき、直打・シュート打が可能な箇所で、平均法長1.1m以下、法勾配1:1.5～1:2.0の法面
コンクリートポンプ車打設	上記以外の法面

注) 1. コンクリートポンプ車打設において、圧送管延長がコンクリートポンプ車から作業範囲3.0mを越える場合は圧送管組立撤去の延長を区分する。

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編(共通編)1章 基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

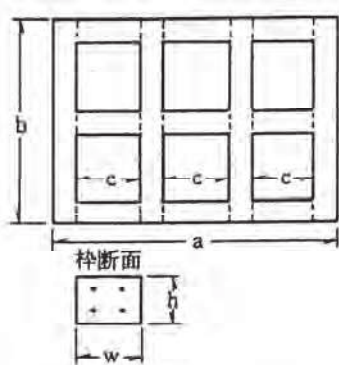
(1) 現場打法枠

現場打法枠の数量は、現場打法枠工の施工面積を算出する。

(2) 中詰ブロック

中詰ブロックの数量は、中詰ブロックの使用量(法枠面積100m<sup>2</sup>当り)及び法枠面積を含めた全体面積を算出する。

(設計量算出例)



■ 設計枠長(フレーム設計量)

$$L = b \times 4 + c \times 9$$

■ 枠用鉄筋量(重量)

$$G = (a \times 3 + b \times 4) \times n \times g$$

g: 鉄筋単位重量

n: 枠断面内の鉄筋本数(例 n=4)

■ モルタル, コンクリート量(体積)

$$V = \text{設計枠長} \times w \times h$$

w: 枠幅

h: 枠高

(4本配筋の例)

### 5.1.3 吹付砕工

#### 1. 適用

金網メッシュ、プラスチック段ボール等の自由に変形可能な型枠鉄筋のプレハブ部材を用い鉄筋を含む吹付砕工に適用する。

#### 2. 数量算出項目

吹付砕、ラス張、水切モルタル・コンクリート、表面コテ仕上げ、間詰コンクリート（モルタル）、法面清掃、枠内吹付・中詰等の数量を区分毎に算出する。

#### 3. 区分

区分は、規格、垂直高とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

区分 項目		BIM/CIM モデル	属性情報				
			規格	法面の 垂直高	単位	数量	備考
吹付砕		B	○	○	m		目地が必要な場合は、別途算出する。
ラス張		B	×	×	m <sup>2</sup>		必要に応じて計上する 全面積対象
水切モルタル・コンクリート		A	×	×	m <sup>3</sup>		必要に応じて計上する
表面コテ仕上げ		B	×	×	m <sup>2</sup>		〃
間詰コンクリート(モルタル)		A	×	×	m <sup>3</sup>		〃
法面清掃		B	×	×	m <sup>2</sup>		必要に応じて計上する 全面積対象
枠内吹付 枠内中詰	モルタル	B	○	○	m <sup>2</sup>		必要に応じて計上する
	コンクリート	B	○	○	m <sup>2</sup>		〃
	植生基材	B	○	○	m <sup>2</sup>		〃
	枠内中詰	B	○	○	各種		〃

BIM/CIMモデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

注) グランドアンカーは、「第1編（共通編）11章仮設工 11.10アンカー工」、ロックボルトは、「第1編（共通編）11章仮設工 11.11鉄筋挿入工」により必要に応じて別途算出すること。

(2) 吹付枠の規格による区分

吹付枠の規格による区分は、下表のとおりとする。

区 分				
吹付法枠	コンクリート ・ モルタル	梁断面	150×150	枠材固定に使用する主アンカー（アンカーバー）及び、補助アンカー（アンカーピン）の長さ（m）  ・ 1 m以内 ・ 1 mを超える ※アンカー長も算出する。
			200×200	
			300×300	
			400×400	
			500×500	
			600×600	

(3) 法面の垂直高による区分

法面の垂直高による区分は、下表のとおりとする。

項 目	法面の垂直高による区分
吹 付 枠	垂直高さが4.5m以下の部分の法枠長
	垂直高さが4.5mを超える部分の法枠長

4. 数量算出方法

数量算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

(1) 吹付枠

吹付枠の数量は、コンクリート吹付及びモルタル吹付のそれぞれの施工延長を算出する。

(2) ラス張

ラス張の数量は、全面積を対象とし、必要に応じ算出する。

(3) 水切モルタルコンクリート

水切モルタルコンクリートの数量は、必要に応じ体積を算出する。

(4) 表面コテ仕上げ

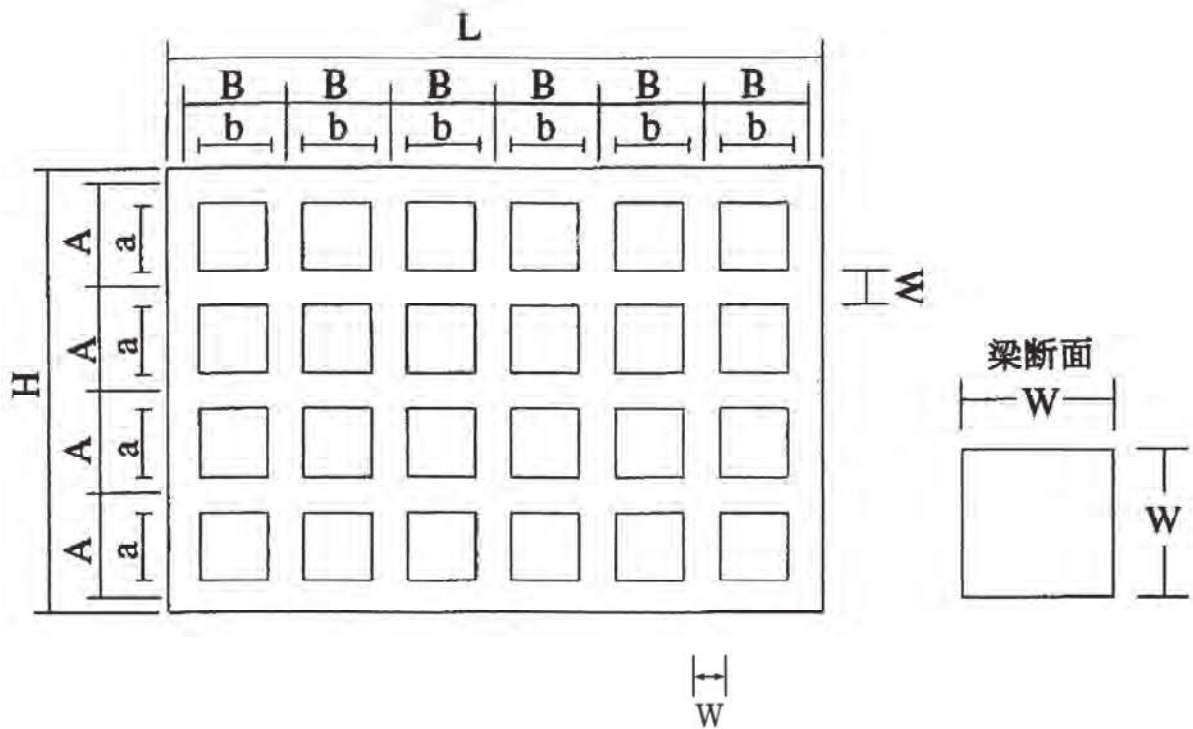
表面コテ仕上げの数量は、必要に応じ面積を算出する。



- (5) 間詰コンクリート（モルタル）  
間詰コンクリート（モルタル）の数量は、必要に応じ体積を算出する。
- (6) 法面清掃  
法面清掃の数量は、全面積を対象とし、必要に応じ算出する。
- (7) 枠内吹付  
枠内吹付の数量は、「5. 2吹付工」、「5. 3植生工」により必要量を算出する。
- (8) 枠内中詰  
枠内中詰の数量は、「5. 1. 1プレキャスト法枠工」により必要量を算出する。

(設計量算出例)

法枠長を計上する際の梁の延長は、下記を基本とする。



計算方法

縦枠： $H \times \{ (L - W) \div B + 1 \}$

横枠： $b \times \{ (L - W) \div B \} \times \{ (H - W) \div A + 1 \}$

## 5.1.4 プレキャストコンクリート板設置工

### 1. 適用

グラウンドアンカーとプレキャストコンクリート板を緊結することにより、斜面等の安定化を図る工法に適用する。

### 2. 数量算出項目

プレキャストコンクリート板、プレキャストコンクリート板（材料費）、ジョイント処理、ジョイント金物（材料費）の数量を区分ごとに算出する。

### 3. 区分

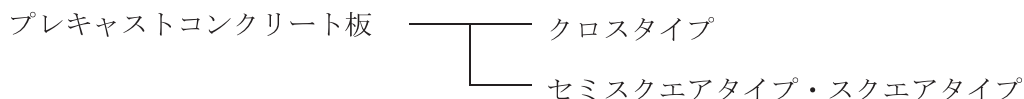
区分は、規格、フレームタイプ、1列当り平均据付枚数、モルタル規格、モルタル使用量（ $m^3$ /箇所）とする。

#### (1) 数量算出項目及び区分一覧表

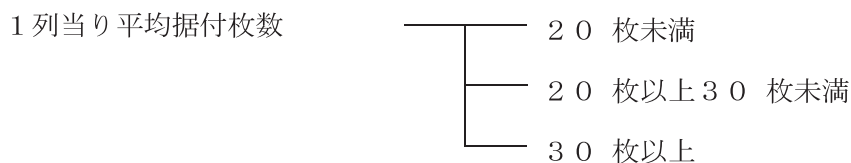
区分 項目	BIM/CIM モデル	属性情報							
		規格	フレーム タイプ	1列当り 平均据 付枚数	モルタル 規格	モルタル 使用量 ( $m^3$ /箇 所)	単位	数量	備考
プレキャスト コンクリート板	B	○	○	○	×	×	枚		
プレキャスト コンクリート板 (材料費)	B	○	×	×	×	×	枚		
ジョイント処理	B	○	×	×	○	○	箇所		
ジョイント金物 (材料費)	B	○	×	×	×	×	組		

BIM/CIM モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

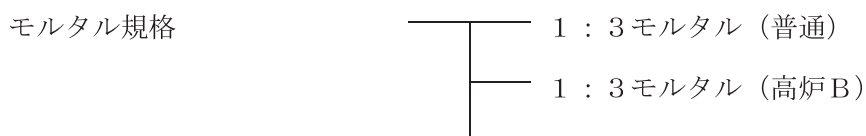
#### (2) プレキャストコンクリート板のフレームタイプによる区分



#### (3) プレキャストコンクリート板の1列当り平均据付枚数による区分



#### (4) ジョイント処理のモルタル規格による区分



(5) ジョイント処理のモルタル使用量 (m<sup>3</sup>/箇所) による区分

モルタル使用量 (m <sup>3</sup> /箇所)	0.016m <sup>3</sup> 以下
	0.016m <sup>3</sup> 超え 0.032m <sup>3</sup> 以下
	0.032m <sup>3</sup> 超え 0.050m <sup>3</sup> 以下

関連数量算出項目

項目	BIM/CIM モデル	属性情報		
		単位	数量	備考
削孔 (アンカー)	B	m		「第1編 (共通編) 11.10 アンカー工」参照
アンカー鋼材加工・組立・挿入・緊張・定着・頭部処理 (アンカー)	B	本		「第1編 (共通編) 11.10 アンカー工」参照
グラウト注入 (アンカー)	B	m <sup>3</sup>		「第1編 (共通編) 11.10 アンカー工」参照
ボーリングマシン移設 (アンカー)	B	回		「第1編 (共通編) 11.10 アンカー工」参照
泥排水処理工	B	m <sup>3</sup>		必要な場合別途計上
アンカー (材料費)	B	本		「第1編 (共通編) 11.10 アンカー工」参照
裏込工	A	m <sup>3</sup>		必要な場合別途計上
ジョイント処理工 (スクエアタイプ)	B	箇所		必要な場合別途計上
目地工 (スクエアタイプ)	B	m		必要な場合別途計上
足場工	B	空m <sup>3</sup>		必要な場合別途計上

BIM/CIM モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

4. 数量算出方法

数量算出は、「第1編 (共通編) 1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。

- (1) プレキャストコンクリート板 (材料費) は、規格ごとに枚数を算出する。
- (2) ジョイント金物 (材料費) は、ジョイント金物の他、連結ボルト等、必要な金具類を含み、規格ごとにジョイント1組当りの必要数量及び組数を算出する。
- (3) 斜面とプレキャストコンクリート板との間に発生する空隙に対して、裏込工を施工する場合は、別途考慮する。
- (4) スクエアタイプにおけるジョイント処理及び目地工は、別途考慮する。
- (5) プレキャストコンクリート板の1列当り平均据付枚数は、下式により算出する。  

$$1 \text{ 列当り平均据付枚数} = \text{総据付枚数} \div \text{施工列数}$$
- (6) 1列当り平均据付枚数は、1工事単位とする

## 5.2 吹付工

### 1. 適用

モルタル吹付工、コンクリート吹付工に適用する。

### 2. 数量算出項目

モルタル吹付、コンクリート吹付の面積を区分ごとに算出する。

### 3. 区分

区分は、吹付厚さ、垂直高とする。

#### (1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目 \ 区分	BIM/CIM モデル	属性情報				
		吹付厚さ	垂直高	単位	数量	備考
モルタル吹付	B	○	○	m <sup>2</sup>		金網有無
コンクリート吹付	B	○	○	m <sup>2</sup>		金網有無

BIM/CIMモデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

注) 1. モルタル吹付、コンクリート吹付の補強鉄筋 (kg/m<sup>2</sup>) が必要な場合は別途算出する。また、金網 (m<sup>2</sup>) は、菱形金網と溶接金網で区分して算出する。

2. 通常の吹付と枠内吹付に区分して算出する。

#### (2) 吹付厚さ区分

吹付厚さ (cm) ごとに区分して算出する。

#### (3) 垂直高区分

法面の垂直高による区分は、下記のとおりとする。

- ① 4.5 m以下
- ② 4.5 mを超える

注) 垂直高は、施工基面 (機械設置基面) からの高さとする。

## 5.3 植生工

### 1. 適用

植生基材吹付工、客土吹付工、種子散布工、植生マット工、植生シート工、植生筋工、筋芝工、張芝工、市松芝工（格子状に張る場合）、人工張芝工（ネット又はワラ付張芝）、繊維ネット工に適用する。

### 2. 数量算出項目

植生基材吹付、客土吹付、種子散布、植生マット、植生シート、植生筋、筋芝、張芝、市松芝、人工張芝、繊維ネットの面積を区分ごとに算出する。

### 3. 区分

区分は、吹付厚さ、種子配合、法長、垂直高とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

区分 分 項 目	BIM/CIM モデル	属性情報						
		吹付厚さ	種子配合	法長	垂直高	単位	数量	備考
植生基材吹付	B	○	○	×	○	m <sup>2</sup>		注) 1
客土吹付	B	○	○	×	○	m <sup>2</sup>		
種子散布	B	×	○	×	○	m <sup>2</sup>		注) 5
植生マット	B	×	○	×	×	m <sup>2</sup>		
植生シート	B	×	○	×	×	m <sup>2</sup>		注) 2
植生筋	B	×	×	×	×	m <sup>2</sup>		注) 3
筋芝	B	×	×	×	×	m <sup>2</sup>		注) 3
張芝	B	×	×	×	×	m <sup>2</sup>		注) 3、注) 5
市松芝	B	×	×	×	×	m <sup>2</sup>		注) 3、注) 4
人工張芝	B	×	×	×	×	m <sup>2</sup>		注) 7、注) 8
繊維ネット	B	×	×	×	×	m <sup>2</sup>		注) 6

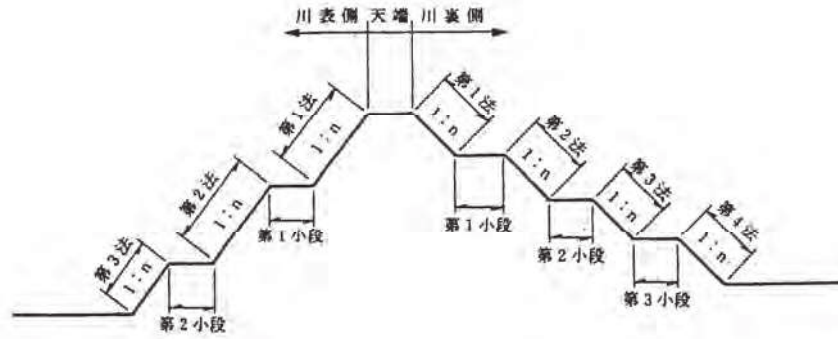
BIM/CIM モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

- 注) 1. 植生基材吹付については、通常の吹付と枠内吹付に区分して算出する。また、施工基面（機械設置基面）から上面への施工か、下面への施工であるかを区分して算出する。
2. 植生シートについては、標準品と環境品（分解 [腐食] 型及び循環型 [間伐材等使用]）に区分して算出する。
3. 植生筋、筋芝、張芝、市松芝は、材料の総面積ではなく、対象となる法面等の施工面積を算出する。
4. 市松芝は平面部への高麗芝、野芝の芝付と、法面部への高麗芝、野芝の芝付、耳芝のみの施工の場合、公園工事の場合に区分して算出するものとする。散水養生、施肥が必要な場合は別途算出する。
5. 種子散布及び張芝については、平面部・法面部に区分せず合計を算出する。
6. 繊維ネットは、肥料袋の有無でも区分して算出する。
7. かけ土は必要に応じて別途算出する。
8. 落下防止、姿勢維持のための仮設ロープ等を使用する場合は別途算出する。

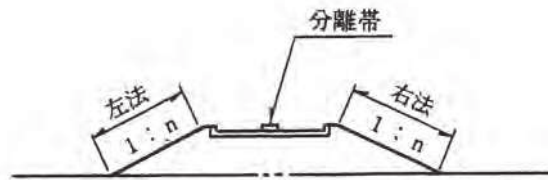
(2) 施工箇所区分

植生筋工、筋芝、張芝、市松芝については、略図に名称を明示し施工箇所ごとに区分して算出する。

(河川略図例)



(道路略図例)



(3) 種子配合区分

種子配合毎に区分して算出する。

(4) 垂直高区分

法面の垂直高による区分は、下表のとおりとする。

項目	法面垂直高による区分		
植生基材吹付	① 4.5 m以下	② 4.5 mを超え 8.0 m以下	③ 8.0 mを超える
客土吹付工	① 2.5 m以下	② 2.5 mを超える	
種子散布工	① 3.0 m以下	② 3.0 mを超える	

注) 垂直高は、施工基面（機械設置基面）からの高さとする。

## 5.4 コンクリートブロック積(張)工

### 1. 適用

コンクリートブロック積工、コンクリートブロック張工及び緑化ブロック積工に適用する。  
 なお、コンクリートブロック積工は、間知ブロック積及び大型ブロック積を対象とし、コンクリートブロック張工は、間知ブロック張、平ブロック張及び連節ブロック張を対象とする。

### 2. 数量算出項目

間知ブロック積、大型ブロック積、間知ブロック張、平ブロック張、連節ブロック張、緑化ブロック積、胴込・裏込コンクリート、胴込・裏込材（砕石）、遮水シート張、吸出防止材（全面）設置、植樹、現場打基礎コンクリート、現場打小口止コンクリート、現場打横帯（隔壁）コンクリート、現場打天端コンクリート、プレキャスト基礎ブロック、プレキャスト小口止ブロック、プレキャスト横帯（隔壁）ブロック、プレキャスト巻止ブロックの数量を区分ごとに算出する。

### 3. 区分

区分は、規格、構造とする。

#### (1) 数量算出項目及び区分一覧表

##### ①間知ブロック積

区分 項目	BIM/CIM モデル	属性情報				
		鉄筋 規格	鉄筋 10m <sup>2</sup> 当 り使用量	単位	数量	備考
間知ブロック積	B	○	○	m <sup>2</sup>		

BIM/CIM モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

- 注) 1. 間知ブロック積工は、勾配1割未満、ブロック質量150kg/個以上730kg/個以下の場合である。  
 2. 設計面積は、調整コンクリートを含んだ面積とし、小口止、横帯（隔壁）、天端コンクリートは別途計上する。  
 3. 施工箇所が点在する場合は、その施工箇所ごとに区分して算出する。

##### ②大型ブロック積

区分 項目	BIM/CIM モデル	属性情報					
		ブロック 規格	ブロック の質量	水抜き パイプ の有無	単位	数量	備考
大型ブロック積	B	○	○	○	m <sup>2</sup>		

BIM/CIM モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

- 注) 1. 大型ブロック積工は、勾配1割未満、ブロック質量4,600kg/個以下、控え長500mm以上の場合である。

2. 設計面積は、調整コンクリートを含んだ面積とし、小口止、横帯（隔壁）、天端コンクリートは別途計上する。
3. 施工箇所が点在する場合は、その施工箇所ごとに区分して算出する。

③間知ブロック張

区分 項目	BIM/CIM モデル	属性情報										
		間知 ブロック 規格	裏込 材 規格	裏込 材 10 m <sup>2</sup> 当 り使 用量	胴込・ 裏込コ ンクリ ート 規格	胴込・裏 込コ ンクリ ート 10m <sup>2</sup> 当 り使 用量	遮水 シ ー ト 規 格	単位	数量	備考		
間知 ブロック張	B	○	○	○	○	○	○	○	○	m <sup>2</sup>		

BIM/CIM モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

- 注) 1. 間知ブロック張工は法勾配が1割以上、ブロック質量770kg/個以下の場合である。
2. 設計面積は、調整コンクリートを含んだ面積とし、小口止、横帯（隔壁）、天端コンクリートは別途計上する。
  3. 間知ブロック張と遮水シート張（ブロック背面）は、同施工面積とする。

④平ブロック張

区分 項目	BIM/CIM モデル	属性情報										
		ブ ロ ッ ク の 質 量	平 ブ ロ ッ ク 規 格	裏込 材 規 格	裏込 材 10 m <sup>2</sup> 当 り使 用量	遮水 シ ー ト 規 格	吸出 防 止 材 の 有 無	連 結 金 具 の 有 無	連 結 金 具 10m <sup>2</sup> 当 り使 用量	単位	数量	備考
平ブロック張	B	○	○	○	○	○	○	○	○	m <sup>2</sup>		

BIM/CIM モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

- 注) 1. 平ブロックの張工（勾配1割以上、ブロック質量770kg/個以下）の場合である。
2. 平ブロック張と遮水シート張（ブロック背面）は、同施工面積とする。
  3. 設計面積は、調整コンクリートを含んだ面積とし、小口止、横帯（隔壁）、天端コンクリートは別途計上する。
  4. 施工箇所が点在する場合は、その施工箇所ごとに区分し、河川護岸においてはさらに低水・高水護岸に区分して算出する。

⑤連節ブロック張

区分 項目	BIM/CIM モデル	属性情報						単位	数量	備考
		ブ ロ ッ ク の 質 量	連 結 方 法	連 節 鉄 筋 (鋼線)規格	遮水 シ ー ト 規 格	吸出 防 止 材 の 有 無				
連節ブロック張	B	○	○	○	○	○	m <sup>2</sup>			

BIM/CIM モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

- 注) 1. 連節ブロックの張工（勾配1割以上、ブロック質量770kg/個以下）の場合である。
2. 連節ブロック張と遮水シート張（ブロック背面）は、同施工面積とする。



3. 設計面積は、調整コンクリートを含んだ面積とし、小口止、横帯（隔壁）、天端コンクリートは別途計上する。
4. 施工箇所が点在する場合は、その施工箇所ごとに区分し、河川護岸においてはさらに低水・高水護岸に区分して算出する。

⑥緑化ブロック積

区分 項目	BIM/CIM モデル	属性情報							
		緑化 ブロック の質量	裏込材 規格	裏込材 10m <sup>2</sup> 当り 使用量	胴込・ 裏込 コンクリート 規格	胴込・裏込 コンクリート 10m <sup>2</sup> 当り 使用量	単位	数量	備考
緑化ブロック積	B	○	○	○	○	○	m <sup>2</sup>		

BIM/CIM モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

- 注) 1. 緑化ブロックの積工（勾配1割未満、ブロック質量980kg/個以下）の場合である。  
 2. 設計面積は、調整コンクリートを含んだ面積とし、小口止、横帯（隔壁）、天端コンクリートは別途計上する。  
 3. 施工箇所が点在する場合は、その施工箇所ごとに区分して算出する。

⑦胴込・裏込コンクリート、胴込・裏込材（砕石）、遮水シート張、吸出し防止材(全面)設置、植樹

区分 項目	BIM/CIM モデル	属性情報					単位	数量	備考
		生コンクリート規格	ブロックの種類	ブロックの質量	胴込・裏込材規格	遮水シート規格			
胴込・裏込コンクリート	A	○	○	○	×	×	m <sup>3</sup>		
胴込・裏込材(砕石)	A	×	○	×	○	×	m <sup>3</sup>		
遮水シート張	B	×	×	×	×	○	m <sup>2</sup>		
吸出し防止材(全面)設置	B	×	×	×	×	×	m <sup>2</sup>		
植樹	B	×	×	×	×	×	本		

BIM/CIM モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

- 注) 施工箇所が点在する場合は、その施工箇所ごとに区分して算出する。

⑧現場打基礎コンクリート、プレキャスト基礎ブロック

区分 項目	BIM/CIM モデル	属性情報				単位	数量	備考
		生コンクリート規格	プレキャスト基礎ブロック規格	基礎砕石の有無	養生工の種類			
現場打基礎コンクリート	A	○	×	○	○	m		
プレキャスト基礎ブロック	B	×	○	×	×	m		
プレキャスト基礎ブロック(材料費)	B	×	○	×	×	m		

BIM/CIM モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

- 注) 現場打基礎コンクリートは、体積 (m<sup>3</sup>) も算出するとともに、底幅及び高さも示す。

⑨現場打天端コンクリート

項目	区分	BIM/CIM モデル	属性情報					
			生コンクリート 規格	コンクリート 打設条件	養生工 の種類	単位	数量	備考
現場打天端コンクリート		A	○	○	○	m <sup>3</sup>		

BIM/CIM モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

⑩現場打小口止コンクリート、プレキャスト小口止ブロック、現場打横帯（隔壁）コンクリート、プレキャスト横帯（隔壁）ブロック、プレキャスト巻止ブロック

項目	区分	BIM/CIM モデル	属性情報					
			規格	構造	養生工の 種類	単位	数量	備考
現場打小口止コンクリート		A	○	×	○	m		
プレキャスト小口止ブロック		B			×	m		
プレキャスト小口止ブロック （材料費）		B			×	m		
現場打横帯（隔壁）コンクリート		A			○	m		
プレキャスト横帯（隔壁）ブロック		B			×	m		
プレキャスト横帯（隔壁）ブロック （材料費）		B			×	m		
プレキャスト巻止ブロック		B			×	m		
プレキャスト巻止ブロック （材料費）		B			×	m		
裏込材		B			×	m <sup>2</sup>		
目地材		B			×	m <sup>2</sup>		
基礎砕石		B			×	m <sup>2</sup>		

BIM/CIM モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

- 注） 1． 必要に応じて数量を項目ごとに算出する。  
 2． 現場打小口止コンクリート、現場打横帯（隔壁）コンクリートについては、体積（m<sup>3</sup>）も算出すること。

(2) 規格区分

コンクリートブロック積、コンクリートブロック張及び緑化ブロック積、プレキャスト小口止ブロック、プレキャスト横帯（隔壁）ブロック、プレキャスト巻止ブロックは、ブロックの種類、質量、形状及び大きさごとに区分して算出する。

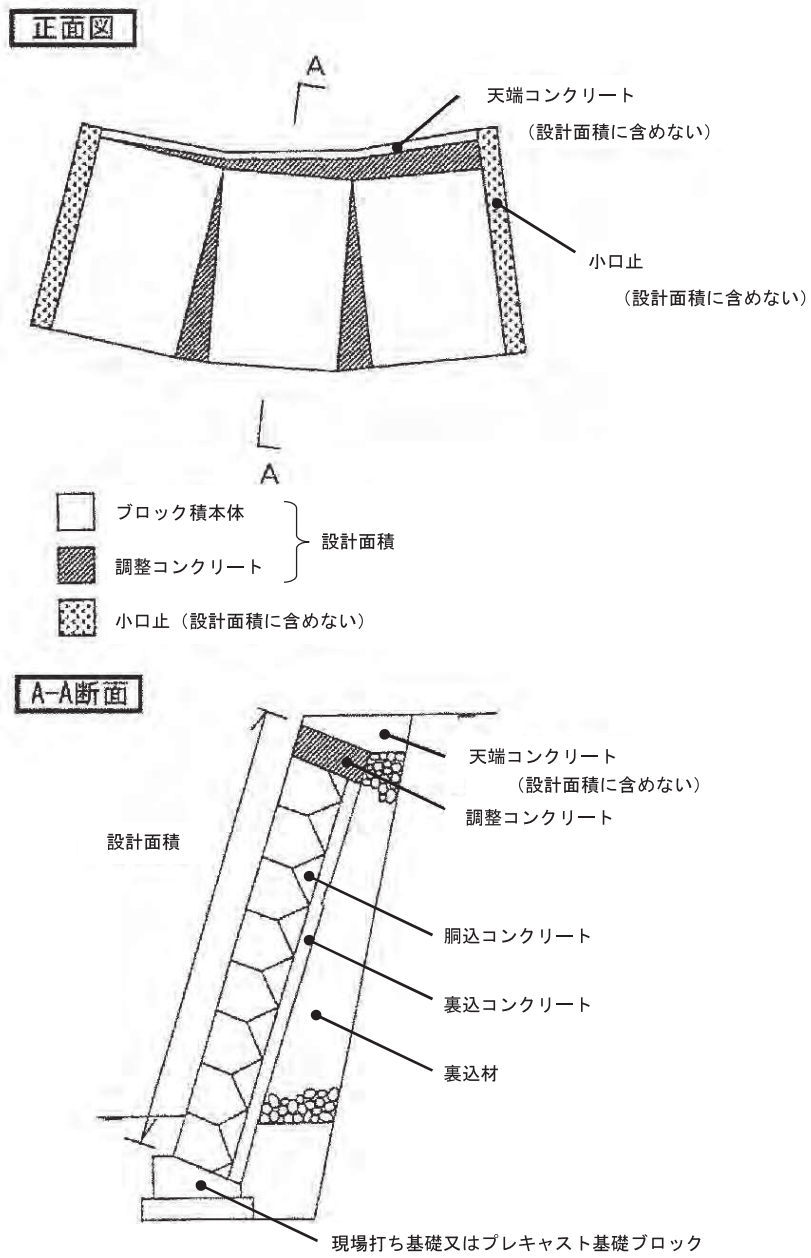
現場打小口止コンクリート、現場打横帯（隔壁）コンクリート及び現場打天端コンクリートは、形状及び寸法ごとに区分して算出する。

(3) 構造区分

空積（張）及び練積（張）に区分して算出する。

#### 4. 参考図

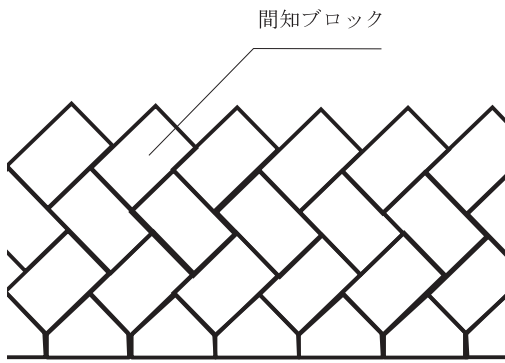
##### (1) 調整コンクリート・小口止・天端コンクリート



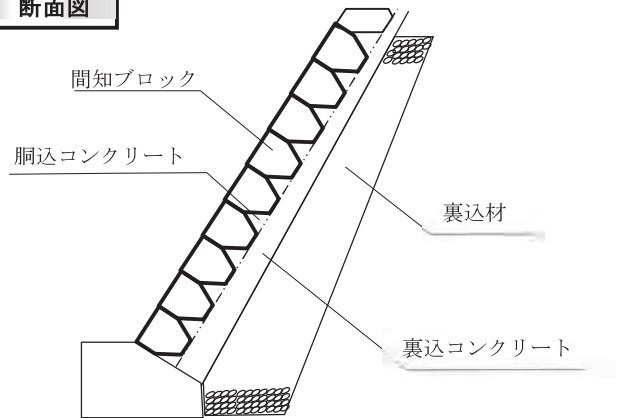
(2) 各種ブロック参考図

① 間知ブロック積

正面図

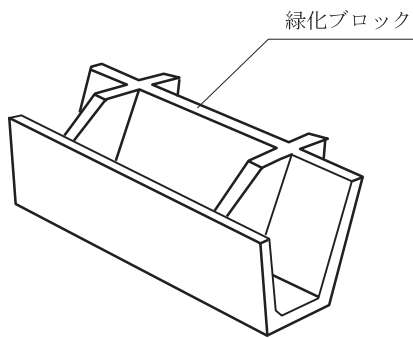


断面図

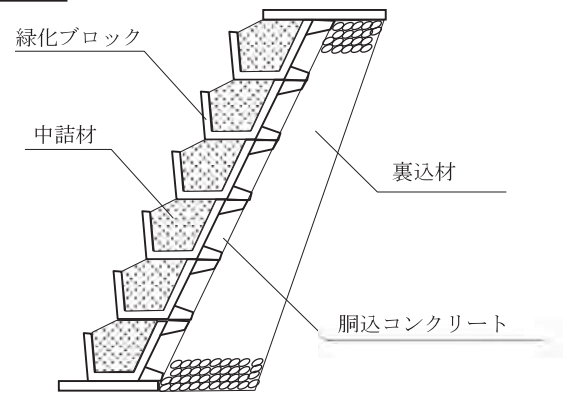


② 緑化ブロック積

ブロックの参考図

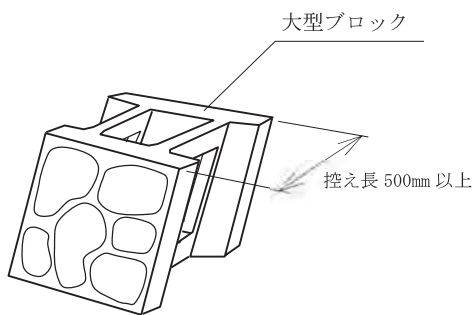


断面図



③ 大型ブロック積

ブロックの参考図



断面図

